さまざまな日本語学習者との関わりの中で

国際交流基金パリ日本文化会館
谷口　萌子

パリ日本文化会館（以下、MCJP）に日本語指導助手（以下、指導助手）として着任してから、1 年 8 ヶ月が過ぎ、エッフェル塔を見上げる観光客をくぐり抜けながらの通勤も、すっかり日常の一部になりました。

指導助手のさまざまな業務

MCJP は、国際交流基金の海外拠点としては最大規模で、展示、舞台、映画、講演会、体験講座、そして日本語事業など、様々な方面から日本文化を発信しています。指導助手はこの中の日本語事業部にて業務を行います。

日本語事業部の業務は多岐にわたりますが、アドバイザー事業と講座事業に大きく分かれています。アドバイザー事業は、教師や学習者への支援、講座事業では、日本語講座や講座受講生向けイベントの運営を中心に行っています。パリ派遣の指導助手は、どちらの事業にも携わり、フランスの日本語教育を多面的に見ることができるのが大きな魅力だと思います。ここでは、最近特にやりがいを感じている業務についてお話ししたいと思います。

おさんぽしゃべろん

講座事業では、日本語講座受講生（以下、受講生）向けのイベントとして、オンラインイベントや、MCJP の展示を活用したイベントなど、いろいろ実施しています。その中でも、受講生が開催を心待ちにしているイベントの一つが、おさんぽしゃべろんです。散歩しながら、歴史のある場所やおもしろいスポットについて話して、日本語でのおしゃべりを楽しんでもらおうというものです。

以前から人気のあったイベントですが、もっと楽しく、達成感をもってもらえるイベントにするために何ができるか、チームで考えて、少しずつ改善しています。例えば、よく知っている人とばかり話してしまうということがあったので、初めての人とも話しやすいように、参加者全員に自己紹介をしてもらい、名札もつけてもらうようにしました。ちょっとしたことですが、全体の雰囲気や参加者の表情がずいぶん変わるのを感じました。

うれしいことに、徐々に参加者が増え、初級レベルの受講生も安定して参加してくれるようになりました。このイベントが好きで、仕事の合間を縫って来てくれる人もいます。イベントでは質問をまとめた資料を配布しているのですが、参加者の傾向を考え、難しい日本語を知らなくても気軽に話せるような質問や、事前に調べなくても話せる質問を増やすようになりました。

パリ市内の墓地でのおさんぽしゃべろんにて。たくさんの受講生が参加してくれ、盛り上がりました。

このようにチームで試行錯誤できることがとても楽しく、やりがいを感じています。毎回、反省や課題はありますが、そこに向き合うことが自身の成長にも繋がっていると感じます。イベントへの参加を通して、受講生のみなさんが日本語学習を長く楽しく続けていけるように、これからも考え続けたいと思います。

出前多読サロン

アドバイザー事業の一つとして、2022 年度から「出前多読サロン」を行っています。「多読」というのは、たくさんの本の中から自分で読みたい本を選び、楽しみながら日本語を身につける活動のことです。「出前」と付いているのは、要望があった学校などに私たちスタッフが駆けつけるからです。スーツケースいっぱいに本を詰めていきます。

出前多読サロンを行う中で、たくさんの学びがありましたが、何より大きな気づきは、たった 1 時間程度でも、フランスで日本語を学習している人たちのためにできることがあると実感できたことでした。たいてい、最初はみなさん緊張した表情で座っていますが、一通り説明を終えると、たくさんの本の中からどれを読もうかと楽しそうに迷っている姿、一人で集中して読み進める姿、おもしろい表現を見つけて友だちと一緒に笑っている姿が見られます。中にはひらがな・カタカナを覚えたばかりの人もいましたが、友だちと一緒に一生懸命文字を追って、なんとか「う…さ…ぎ…」と読み、イラストを見て「あ！」と意味を理解し、喜ぶ様子も見られました。 最後には、おもしろかった本をみんなの前で発表してくれ、みんながそのオチにどっと笑うこともあります。こういった一瞬一瞬に出会うたび、たどり着くのに何時間かかっても、その 1 時間のために来てよかったと感じます。

高校での出前多読サロンにて。友だちと一冊の本を読んで楽しんでいる様子。

出前多読サロンに参加してもらい、日本語に触れて、「楽しかった、おもしろかった！」と感じた時間、「日本語が読めた、わかった！」という自信の積み重ねが、さらなる日本語学習へのモチベーションに繋がっているのではないかと期待していますし、いつまでも日本語や日本を好きでいてくれたらうれしいなと思います。
多くの学習者や先生に出会えたことは、今後どんなことをすれば、出会った人たちのために、フランスの日本語教育のためになるだろうと考える原動力にもなっています。

1 年 8 ヶ月をふりかえって

指導助手としての任期も残り数ヶ月となりました。本当に多くの業務に携わることができ、毎日が学びのある充実した時間でした。すでに寂しい気持ちもありますが、イベントや出前多読サロン、その他の業務もまだ残っています。残りの一回一回を大切に、自分にできることを積極的にしていきたいと思います。

以上